

Praying for the Government

- Derek Prince

デレク・プリンス 教えの遺産アーカイブ

学びの書簡シリーズ

「政府のために祈る」

政府のために祈る

クリスチャンには、自分たちが住む国、政府のために祈る責任があります。あなたが、批判することよりも、祈ることに時間を取るなら、批判することも少なくなるでしょう。

国家のために祈る

教会が自国で権威を行使できる多くの方法があります。私は4つの方法を挙げたいと思います。「祈り」、「あかし」、「伝道」、「良い行ない」です。これらは、国家に影響を与えるために、神が教会に期待しているおもな方法です。

神は、教会が祈りを通してこの世界の事柄を動かし、影響を与えていくことを願っておられます。そのことは、聖書に明確に書かれています。もし、教会がそのことを怠るなら、教会は塩気のない塩になってしまいます。

Ⅱ 歴代誌 7:14 にこう書かれています。「わたしの名で呼ばれているわたしの民が、自らへりくだり、祈りをささげ、わたしの顔を慕い求めてその悪の道から立ち返るなら、わたしは親しく天から聞いて、彼らの罪を赦し、彼らの地をいやす。」

これは、ソロモンが神殿を奉献した後、主によって語られた啓示です。みなさんの中には、この約束は旧約聖書にあり、はるか昔にソロモンに語られたので、今の私たちにはあまり意味がないと考える人もいるでしょう。そのことについて簡潔に説明しましょう。

Ⅱ コリント 1:20 に、「神の約束はことごとく、この方において『はい』となりました。それで私たちは、この方によって『アーメン』と言い、神に栄光を帰するのです」と書かれています。いくつかの約束ではなく、「約束はことごとく」です。それは、過去に起こっただけでも、未来に起こるだけでなく、現在において「はい」なのです。それでも、あなたがまだ疑いを抱いていらっしゃるなら、単に「はい」だけなのではなく、私たちは、この方(キリスト)によって「アーメン」と言い、神に栄光を帰するということに注目してください。「私たち」とは、あなたや私を含むすべてのクリスチャンです。私たちはどのように神に栄光を帰するのでしょうか。神の約束を宣言することによってです。神の約束を宣言すればするほど、私たちはさらに神に栄光を帰することになるのです。神のすべての約束が、今日生きているキリストにある私たちに有効なのです。

Ⅱ 歴代誌 7:14 の約束に戻りましょう。みなさんは、この約束がどのように今日の私たちに適用するのかを理解しておられると思います。神は、「わたしの名で呼ばれているわたしの民」と言っています。ヘブル語で文字通りに訳すと、「わたしの名を呼ぶわたしの民」です。神の民とは、神の名が呼び求められている人々のことです。クリスチャンであるとはどういうことでしょうか。その人はキリストの名を呼び求めていることです。あなたはキリストの御名と結びついています。キリストの御名によって、クリスチャンであるとみなされるのです。ですから、キリストの御名を呼び求める神の民であるクリスチャンに、この約束が与えられているのです。

神は、もしご自身の民が4つのことをするなら、神は3つのことをしようとっておられます。神はご自分が約束している3つのことをする前に、まず神の民が4つのことをしなければなりません。それは条件付きの約束です。神は無条件にその約束をしようとっておられるのではなく、「わたしの民が、それらのことを行なうなら、わたしは3つのことをしよう」とおられるのです。

まず、その節の最後の部分を見ましょう。神がご自身の民に最終的にしてくださることは、その地をいやすことです。その地とは、彼らが住んでいる地であることは明白です。住んでいる地を神にいやしていただくようにする力が神の民にあると、神は言うておられます。私たちが住む地を見てみましょう。その地はいやしを必要としているのでしょうか。答えは一つしかないはずで、いやしが必要です。その地にいやしが必要であるという事実は、つまり、神が言われていることを、神の民がしてこなかったからです。責任は私たちにあります。薬物依存や売春のゆえでもなく、教会に行ったことがない人のせいでもありません。キリストの御名を呼ぶ人々に責任があるのです。

私たちの地がいやされていないなら、理由はただ一つ、私たちが神の言われることをしていないからです。私は、まさにその通りだと信じます。イエスはマタイ5:13で別の言い方でこう言っています。「あなたがたは地の塩です。もし塩が塩気をなくしてしまったら、何によって塩気をつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけです。」

私たちの地が今いやされていないのなら、私たちの塩は塩気をなくしてしまっているということです。

塩は、どのような役割をしますか。第一に、味をつけます。私たちは地上にいる間、神の視点で地に味をつけます。言い換えれば、神はクリスチャンのゆえに世界を受け入れてくださっています。神は、私たちが存在するゆえに、怒りとさばきよりも、むしろ恵みとあわれみをもって世界を取り扱ってくださいます。

私は、自分が行く場所において違いをもたらすことができると信じています。そのことは、第二次世界大戦の間に発見しました。他の兵士たちは私がいる場所では、より安全でいられたのです。救われていない兵士たちもそのことを知っていました。私たちが北アフリカの砂漠の片隅にいたとき、神を冒瀆していた兵士たちの幾人かが私に向かって、「プリンス伍長、あなたが私たちといてくださることをうれしく思います」と言いました。エリシャは、エリヤに何と言いましたか。「わが父、わが父、イスラエルの戦車と騎兵たち…」(Ⅱ列王記:50)です。彼らはどこにいましたか。周りにいたのは王たちではなく、預言者たちでした。

私たちは、国を守る者たちです。あらゆる国々の防波堤のようなものです。ソドムの例を考えてみてください。アブラハムは神にこう言いました。「もしかすると、そこに見つかるのは十人かもしれません。」すると、神は、「滅ぼしはし

ない。その十人のゆえに」と答えられました。しかし、十人の正しい人が見つからなかったので、神はゾドムを滅ぼさないでおくことはできませんでした。ゾドムの人口がどれくらいだったのかわかりませんが、たった十人の正しい人がゾドムの大きさの町を救うことができます。100人の正しい人はゾドムの十倍の大きさの町を救うことができます。千人の正しい人はゾドムの100倍の大きさの町を救うことができます。その割合はさらに大きな町であっても変わりません。教会が去った後のこの地上のことを考えると、恐ろしくなります。もはや塩気はありません。そして、神の怒りとさばきが際限なく注がれることとなります。しかし、私たちはこの地上にいる間、地の塩なのです。

塩はまた、保存のために用いられます。腐敗を防ぎます。冷蔵庫がない時代、肉は腐敗を防ぐために、塩漬けて保存されました。私たちは何のためにこの地上にいるのでしょうか。腐敗から守るためです。道徳的、社会的、政治的なあらゆる腐敗から守るためです。私たちはこの地上にいる限り、腐敗から守るのです。イエスは言われました。「もし塩が塩気をなくしたら、何によって塩気をつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけです。」教会が塩としての機能を果たすことをやめてしまう時、教会は投げ捨てられ、人々に踏みつけられてしまうでしょう。踏みつける人々とは、共産主義者やナチス、あるいは、まだ現れてはいない「〇〇主義」といったようなものかもしれません。とにかく、人々は、地の塩としての役割を果たしていない教会を踏みつけるでしょう。

神がご自身のために求めておられることは何ですか。第一に、「わたしの民が、自らへりくだり…」です。それは、宗教的な人々にとって最も難しいことです。冗談ではなく、私は本当にそう思うのです。「神よ、私をへりくだらせてください」と言う人がいます。しかし、神は決してそのようには言いません。神が言われるのは、「自らへりくだりなさい」です。神は、「わたしがあなたをへりくだらせよう」とは言っていません。神はあなたをへりくだらせることができません。神はあなたに恥をかかせることはでき、またそうしなければならない時があるでしょうが、あなたをへりくだらせることができるのは、あなた自身だけなのです。へりくだりは、あなたの意志という内なる行ないから来るものでなければなりません。他の方法では不可能です。もし、あなたが自らへりくだることを選び取らないのなら、ちりの中ではずかしめを受けているのに、クジャクのように高ぶってしまうかもしれません。

このように、最初の条件は、自らへりくだり、神に従うことです。私たちは神に従うなら、神のことばと神の権威にも従います。「神に従います」と言うことは容易かもしれませんが、聖書はこう言っています。「キリストを恐れ尊んで、互いに従いなさい。妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。…子どもたちよ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことだからです。」(エペソ 5:21-22、6:1)。これこそが、簡単ではない理由です。多くに人が、「私は神に従っています」と宣言していても、他の人々との関係において試練が来ると、神に従っていないということが明らかにされます。

もし、あなたがへりくだろうとするなら、あなたはそれを実行しなければなりません。神の御前にひれ伏すことは、悪いことではありません。あなたは、そのようにしたことがあるでしょうか。「神さま、私はここにおります。この場所が私のいるべき位置です。私は取るに足りないものです。ちりから造られ、そのちりこそ、私の居場所です」と言うのです。そうすることは、狂信的だと思いませんか。聖書を読むと、神の前に地に顔をつけてひれ伏した、アブラハム、モーセ、ダビデ、ダニエルなど、多くの人々がいたことがわかります。神の前に顔を地につけてひれ伏したことがない偉大な神の人は、聖書の記録の中に一人としていません。モーセやダビデ、ダニエル、その他の人々にとって、神の前にひれ伏

すことがふさわしい立場であったとしたら、そのことがあなたの価値を下げることになるとは思えません。

「わたしの名で呼ばれているわたしの民が、自らへりくだり…」これが、最初の一步であり、それを飛ばすことはできません。神はご自身の第一段階から第四段階までの霊的プログラムを用意しておられます。第一段階に合格しない限り、第二段階に進むことはできません。10年間ずっと第一段階を繰り返さなければならなかったとしても、神が大目に見て、次の段階へ進ませてくれることはないのです。ですから、ある人々は同じ段階にずっととどまり続けてしまうのです。「主よ、私は第一段階はできませんが、第二段階ならできるので、次の段階へ行かせてください」と言おうなどと考えても無駄です。神はそれをお許しになりません。

第二段階は、祈りです。「わたしの名で呼ばれているわたしの民が自らへりくだり、祈りをささげ…」あなたは、へりくだることなく、祈り始めてはいけません。祈りの前に、へりくだりがなければなりません。

「…祈りをささげ、わたしの顔を慕い求めて…」第三段階は神の顔を慕い求めることです。それは、どういう意味でしょうか。私の理解では、全能の神の臨在の中に直接入って行くことだと思います。あらゆる障壁、妨げるものが取り除かれ、全能の神と顔と顔を合わせる状態です。あなたは祈り会に行っているかもしれませんが、それは必ずしも神の顔を慕い求めていることとは限りません。

ある若者が、聖霊のバプテスマを求めて私の所にやって来ました。彼は教会の働き人でした。私が、「水曜日の夜に会いましょう」と言うと、彼はその日は祈り会に出席しなければならないと答えました。私は「それは、あまりいい考えではないかもしれませんが」と言いました。彼は、「どうしてですか。祈り会に出ることはいいことなのではないですか。私たちは8時から9時まで祈るのです」と言いました。確かに、それが祈り会というものです。しかし、それが神の顔を慕い求めているとは限りません。あなたが神の顔を慕い求めようとするなら、たとえ一晩かかったとしても、神の臨在の中に入るまで、やめてはいけません。神の顔を慕い求めている祈りが多くあります。それは、神とのつながりに至ることがありません。

第四段階は、「…その悪の道から立ち返る」です。だれが立ち返るのですか。アルコール依存者や教会に行かない人々ですか。違います。神の民であるクリスチャンです。リバイバルを妨げているものは、教会の外にではなく、教会の内側にあるのです。教会の外側には決してありません。

さばきはどこから始まるかご存知ですか。神の家です。「さばきが神の家から始まる時が来ているからです。」(Iペテロ 4:17)。そのことをさらに明確にするために、ペテロは、「それが、まず私たちから始まるのとなれば…」と付け加えています。そして、「神の福音に従わない人たちの終わりは、どうなることでしょうか」と疑問を投げかけています。神は、常にその方法を用いられます。神は、ご自身を最もよく知っている人々から始められるのです。「多く与えられた者は多くを求められ…」(ルカ 12:48)。あなたは、私は悪い道に進んだことはない、と言うかもしれませんが、しかし、私ならこう答えるでしょう。「あなたは神を知るために神に十分近づいてこなかったのですね。もし、あなたが神の臨在の中に入ったことがあるなら、あなたは自分の悪い道を見たことでしょうか。あなたは、自分には悪い道がなかったと言うことは、まさにあなたが神から遠く離れている証拠です。」

これら四つの段階の後、神は言われます。「わたしは親しく天から聞いて…」神はすべての祈りを聞くと約束しておられるのではないことをご存知でしたか。多くの教会の祈りは、天井ほどの高さにも届かないのではないかと私は思うのです。神は、すべての祈りに答えられるわけではありません。事実、神はこう言われます。「私たちが願うことは何でも神が聞いてくださると分かるなら、私たちは、神に願い求めたことをすでに手にしていると分かります。」(Iヨハネ5:15)。神の答えを得ることが難しいのではなく、神のみこころに沿った祈りであるかどうかなのです。

「わたしは親しく天から聞いて、彼らの罪を赦し…」誰の罪を赦すのでしょうか。売春婦でしょうか、薬物依存者でしょうか。いいえ、教会の罪です。

「…彼らの地をいやす。」これは明確です。ある土地がいやされていないなら、その責任は神の民にあるのです。私はそのことについて熟考し、祈りました。現代のアメリカの状況に対する責任は、教会の戸口にあります。これは、まさに真理でしょう。もし、私たちの地がいやされていないとしたら、その責任は私たちクリスチャンにあります。あなただけに当てはまると言っているのではなく、私自身もその責任があるのです。

祈りによるいやし

私たちはどのようにしていやしをもたらすことができるのでしょうか。Iテモテ 2:1-4に基づいて、祈りについてお話ししたいと思います。

- そこで、私は何よりもまず勧めます。すべての人のために…祈り、とりなし、感謝をささげなさい。
- 王たちと高い地位にあるすべての人のために願い、祈り、とりなし、感謝をささげなさい。それは、私たちがいつも敬虔で品位を保ち、平安で落ち着いた生活を送るためです。
- そのような祈りは、私たちの救い主である神の御前において良いことであり、喜ばれることです。
- 神は、すべての人が救われて、真理を知るようになることを望んでおられます。

これらのみことばについて考えていきましょう。

パウロは、「何よりもまず、祈りなさい」と言っています。祈りを飛ばすことは、あなたがどんな計画や体制、プログラムを考えたとしても、それらが作用するための力を持っていないということです。それは、建物に電気配線が敷かれていても、発電機につながっていないようなものです。何も動作しません。配線には問題なく、電気器具は素晴らしいものであるのに、電気がつかないのは、電源とつながっていないからです。教会の発電所は、祈りです。パウロは非常に論理的に、「何よりもまず、祈りなさい」と言っています。

では、パウロは、何のために祈りなさいと言っているのでしょうか。第一に、「王たちと高い地位にあるすべての人のため」です。私の経験では、何よりもまず、そのような人々のために祈ることは言うまでもないのですが、大半のクリスチャンが彼らのために祈っていません。祈りについて語るのと、祈ることはまったく別のものです。祈禱課題を読み上げても、5分後にはその内容を忘れている人も多いのではないのでしょうか。祈りは形式的なものではありません。

最初に祈るべき課題は何でしょうか。「高い地位にいるすべての人のため」です。首相や閣僚、議会、議員たち、警察庁長官などのためです。あなたはそのような人たちのために祈っていますか。あなたが最後に政府のために祈

ったのはいつですか。あなたが一番最近したことは、批判ですか、それとも祈りですか。あなたがそのような高い地位にある人たちのために祈るなら、批判することは減るでしょう。神はあなたを批判するために召したのではなく、祈るためにあなたを召したのです。あなたが祈っていないのなら、それは不従順です。私はイギリス人ですが、アメリカに住んでおり、アメリカ大統領のために妻と一緒に毎日祈っています。アメリカのリーダーたちのために祈らない日はほとんどありません。大統領は祈られなければなりません。私たちはなぜ、それら高い地位にある人々のために祈るのでしょうか。それは、聖書の中で見出せる祈りの最も論理的な啓示です。2節の後半で、「それは、私たちがいつも敬虔で品位を保ち、平安で落ち着いた生活を送るため」に祈りなさい、と言われていました。一言で言うと、「良い政府」です。そう思いませんか。私たちがいつも敬虔で品位を保ち、平安で落ち着いた生活を送るためには、良い政府がなければならないのです。

パウロは3節でこう続けています。「そのような祈りは、私たちの救い主である神の御前において良いことであり、喜ばれることです。」「そのような祈り」とは、何を指していますか。2節の「それは、私たちがいつも敬虔で品位を保ち、平安で落ち着いた生活を送るため」の祈りです。もっと簡潔に言うと、「私たちが良い政府を持つため」です。

神はなぜ、落ち着いた秩序ある良い政府を望んでおられるのでしょうか。非常に現実的な理由からです。神は、すべての人が救われて、真理を知るようになることを望んでおられるのです。どのような状況の中にあることが、より容易にすべての人が真理に導かれるのでしょうか。正義と公正、法や秩序、市民の自由が守られている政府の下でしょうか。それとも、暴力と混乱を抑制することができず、状況をコントロールできず、不当で独裁的な政府の下でしょうか。どちらの政府が人々を真理に導きやすいと思いますか。賢明な人は、「良い政府」だと答えるでしょう。それこそが、神が良い政府を望んでおられる理由なのです。なぜなら、その体制の中で神の目的である福音伝道が前進するからです。何の困難も複雑さもありません。それは、完全に賢明で実際的なことです。